

# 平成30年度登録販売者試験問題（午前）

指示があるまで開いてはいけません。

受 験 番 号

氏 名

平成30年8月19日

和 歌 山 県

## 注意事項及び答案用紙の記入について

- 問題は10時から12時までの120分間で解答してください。
- 問題は2項目で60問あります。  
また、ページは1ページから42ページまであります。
- 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び答案用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- この試験の医薬品の名称及び成分名は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き（平成30年3月）」に基づいています。また、試験問題文中の「医薬品医療機器等法」は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の略称です。
- 答案用紙は、直接機械にかけますので、折り曲げたり汚さないようにしてください。
- 受験番号、氏名を問題及び答案用紙の所定の欄に忘れず正しく記入してください。  
答案用紙には、受験番号を1ケタごとに該当する[・]をマークしてください。
- 鉛筆は、HBを使用してください。  
訂正するときは、消しゴムできれいに消してください。
- 正解は一つの問題について一つだけです。2か所以上マークするとその解答は無効になります。
- 答案用紙は、解答番号がすべて1から5まであります。問題によっては、解答の選択肢が1から4までの問題があるので、注意してください。
- [・]にマークするとき、枠外へはみ出さないようにしてください。答案用紙に正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

## 答案用紙の記入のしかた

受 験 者 氏 名				
和歌山 太郎				
受 験 番 号				
0	1	2	3	4
←	E 0 ☐	E 0 ☐	E 0 ☐	E 0 ☐
E 1 ☐	←	E 1 ☐	E 1 ☐	E 1 ☐
E 2 ☐	E 2 ☐	←	E 2 ☐	E 2 ☐
E 3 ☐	E 3 ☐	E 3 ☐	←	E 3 ☐
E 4 ☐	E 4 ☐	E 4 ☐	E 4 ☐	←
E 5 ☐	E 5 ☐	E 5 ☐	E 5 ☐	E 5 ☐
E 6 ☐	E 6 ☐	E 6 ☐	E 6 ☐	E 6 ☐
E 7 ☐	E 7 ☐	E 7 ☐	E 7 ☐	E 7 ☐
E 8 ☐	E 8 ☐	E 8 ☐	E 8 ☐	E 8 ☐
E 9 ☐	E 9 ☐	E 9 ☐	E 9 ☐	E 9 ☐

←氏名を記入

←受験番号を記入

←受験番号をマーク  
上の数字に該当する[・]をマークして下さい。

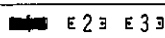

問1 和歌山県庁の所在地は次のうちどれか。

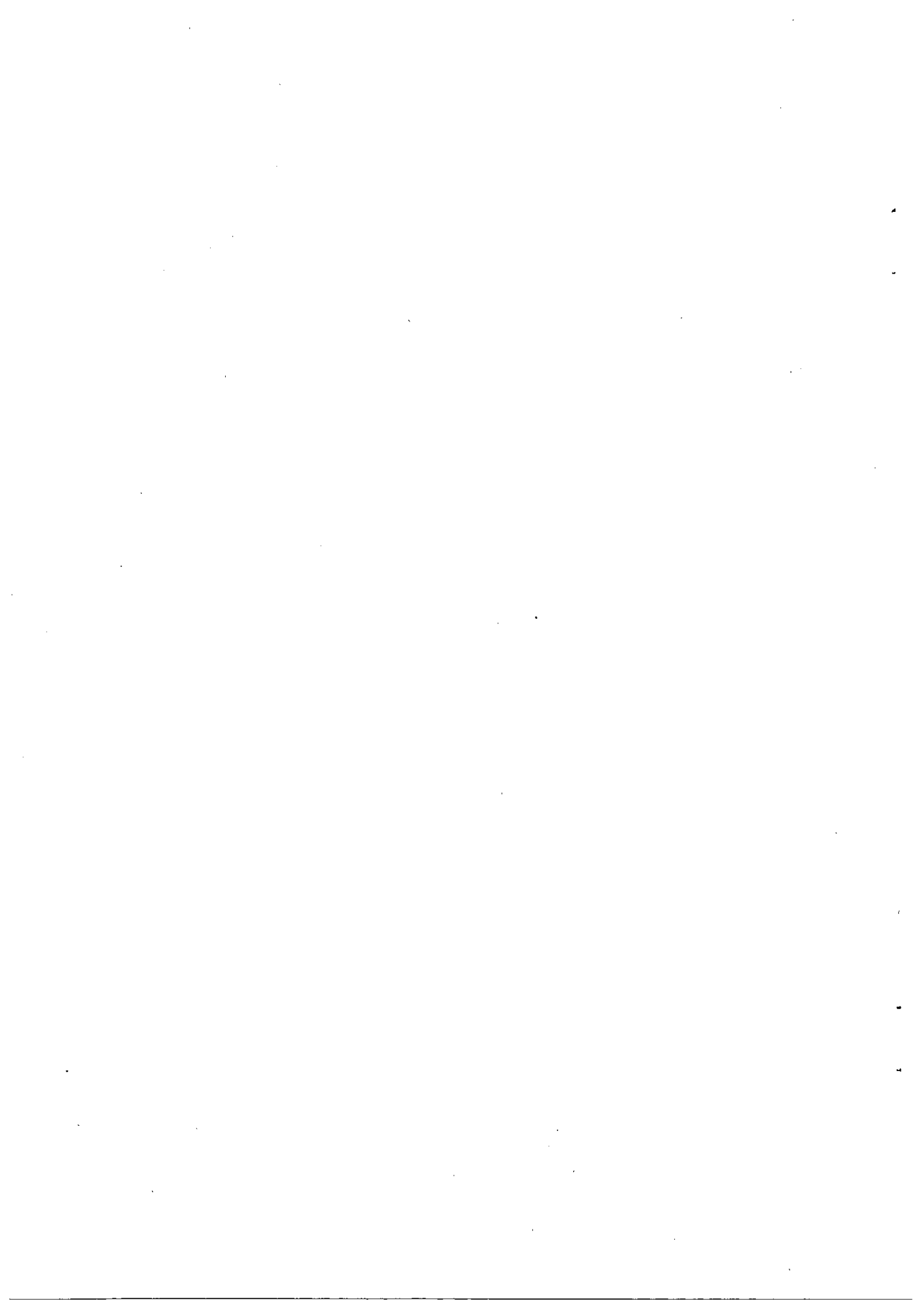
- 橋本市
- 和歌山市
- 有田市
- 新宮市

問題番号	解 答 番 号
問 1	E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☐ E 4 ☐ E 5 ☐

問1の正解は「②和歌山市」ですから、答案用紙の問1の[2]を上のようにマークして下さい。

(注)マークの仕方

よい例  E 2 ☐ E 3 ☐  
悪い例  E 2 ☐ E 3 ☐



【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較すればリスクは相対的に低いと考えられるが、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。
- b 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、または人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- c 一般の生活者は、一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることもある。
- d 医薬品の有効性、安全性等の情報は随時新しいものが付加されるため、一般用医薬品の販売に従事する専門家においては、常にそれらの新しい情報の把握に努める必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問2

医薬品のリスク評価に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との積で表現される( a )関係に基づいて評価される。投与量と効果または毒性の関係は、薬物用量を増加させるに伴い、効果の発現が検出されない「無作用量」から、最小有効量を経て「治療量」に至る。治療量上限を超えると、効果よりも有害反応が強くと発現する「中毒量」となり、「最小致死量」を経て、「致死量」に至る。( b )により求められる( c )%致死量は、薬物の毒性の指標として用いられる。

	a	b	c
1	用法-用量	臨床試験	20
2	用法-用量	動物実験	100
3	用法-用量	臨床試験	50
4	用量-反応	臨床試験	100
5	用量-反応	動物実験	50

### 問3

健康食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「機能性表示食品」は、疾病に罹患している者の健康の維持および増進に役立つ旨または適する旨（疾病リスクの低減に係るものを含む。）を表示するものである。
- b 健康補助食品（いわゆるサプリメント）の中には、誤った使用方法により健康被害を生じた例が報告されている。
- c 医薬品を扱う者は、いわゆる健康食品は法的にも、また安全性や効果を担保する科学的データの面でも医薬品とは異なるものであることを認識し、消費者に指導・説明を行わなくてはならない。
- d 「特定保健用食品」であるキシリトールを含む食品については、「虫歯を治す食品です」などの表示が許可されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

### 問4

プラセボ効果に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 プラセボ効果は、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）が関与して生じることがあると考えられている。
- 2 プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）が関与して生じることがあると考えられている。
- 3 プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、不都合なもの（副作用）はない。
- 4 プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもあるが、不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。

問5

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品に配合されている成分（有効成分および添加物成分）には、高温や多湿、光（紫外線）等によって品質の劣化（変質・変敗）を起こしやすいものがある。
- b 医薬品は、適切な保管・陳列がなされたとしても、経時変化による品質の劣化は避けられない。
- c 一般用医薬品では、薬局または店舗販売業において購入された後、すぐに使用されるとは限らないため、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが重要である。
- d 医薬品を開封した状態で保管した場合であっても、表示されている使用期限内であれば、品質は保証される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問6

医薬品の副作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の主作用以外の反応で、好ましくないもの（有害事象）を一般に副作用という。
- b 医薬品の副作用は、薬理作用による副作用とアレルギー（過敏反応）とに大別される。
- c ある疾病のために使用された医薬品の作用が、別の疾病に対して症状を悪化させることはない。
- d 医薬品の副作用とは、日常生活に支障を来す程度の重大な健康被害のみをいう。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問7

一般用医薬品の副作用等に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 副作用が起きる仕組みや使用者の体質・体調等を把握し、十分注意して適正に使用した場合でも副作用が生じることがある。
- 2 一般用医薬品による副作用の兆候が表れたときには、通常、添付文書等に記載されている用量から減量して使用することとされている。
- 3 一般用医薬品の副作用には、血液や内臓機能への影響等、明確に自覚できないものもある。
- 4 医薬品を使用する人が副作用をその初期段階で認識することにより、副作用の種類に応じて速やかに適切に処置し、または対応し、重篤化の回避が図られることが重要である。

問 8

医薬品によるアレルギー（過敏反応）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 過去に医薬品によりアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態では、アレルギーを起こすことがある。
- b 原材料として鶏卵を使用している医薬品により、アレルギーを起こすことはない。
- c 内服薬により起こるアレルギーで、全身性の湿疹<sup>しん</sup>が生じることはない。
- d アレルギーには遺伝的な要素があるため、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正



問9

一般用医薬品の不適正な使用と有害事象に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児の用量が設定されていない場合、成人の用量の半分以下を服用させれば、有害事象につながる危険性はない。
- b 一般用医薬品の使用を漫然と続けていると有害事象を招く危険性が増加する。
- c 一般用医薬品には習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがある。
- d 必要以上の大量購入や頻回購入をする者には、医薬品の販売等に従事する専門家が、積極的に事情を尋ねることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問10

小児の医薬品の使用等に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 使用上の注意において、おおよその目安として、乳児とは1歳未満、幼児とは7歳未満、小児とは12歳未満の者をいう。
- 2 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短いため、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
- 3 小児は大人と比べて腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄がされやすい。
- 4 乳児は医薬品の影響を受けやすいため、一般用医薬品の使用は最小限にとどめる方が望ましい。

問1 1

妊婦または妊娠していると思われる女性、母乳を与える女性の医薬品の使用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a  いずれのビタミン剤を、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取しても胎児に影響はない。
- b  医薬品成分の一部が乳汁中に移行しても、その医薬品の使用期間中のみ授乳を避ければ乳児に影響を及ぼすことはない。
- c  血液-胎盤関門については、どの程度医薬品成分の胎児への移行を防御するか未解明であることが多い。
- d  一般用医薬品であっても、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問1 2

一般用医薬品の役割に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a  健康の維持・増進
- b  生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防（科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。）
- c  軽度な疾病に伴う症状の改善
- d  健康状態の自己検査

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 1 3

医薬品医療機器等法に基づく一般用医薬品の定義に関する記述について、  
 ( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般用医薬品は、医薬品医療機器等法において「医薬品のうち、その( a )  
 において人体に対する作用が( b )のものであって、薬剤師その他の医薬関  
 係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的  
 とされているもの( ( c )を除く。 ) 」と定義されている。

	a	b	c
1	用法及び用量	著しくない	要指導医薬品
2	用法及び用量	著しい	処方箋医薬品
3	効能及び効果	著しくない	処方箋医薬品
4	効能及び効果	著しい	要指導医薬品
5	効能及び効果	著しくない	要指導医薬品

問 1 4

セルフメディケーションおよび一般用医薬品の選択に関する記述について、  
 誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。
- 2 体調の不調や軽度の症状等について一般用医薬品を使用して対処した場合、一定期間または一定回数使用しても症状の改善がみられないときは、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。
- 3 一般用医薬品で対処可能な範囲は、医薬品を使用する人によって変わるものではない。
- 4 一般用医薬品の販売等に従事する専門家による情報提供は、必ずしも医薬品の販売に結びつけるものではなく、医療機関の受診を勧めることなどが適切な場合がある。

問15

登録販売者が医薬品の購入者から確認しておきたい基本的な事項の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるか。
- b その医薬品を使用する人が相互作用や飲み合わせで問題を生じるおそれのある他の医薬品や食品を摂取していないか。
- c その医薬品を何のために購入しようとしているのか（購入者側のニーズ、購入の動機）。
- d その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問16

一般用医薬品の適正な使用のために必要な情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 購入者が適切な医薬品を選択し、その医薬品を使用する人が適正に使用するためには、医薬品の販売に従事する専門家が、可能な限り、購入者側の個々の状況の把握に努めることが重要である。
- b 医薬品の適正な使用に必要な情報は、添付文書等に記載されており、一般的・網羅的な内容となっている。
- c 一般用医薬品は、宣伝広告や販売価格に基づいて選択されることはない。
- d 一般用医薬品の場合、医薬品の販売に従事する専門家は、必ずしも情報提供を受けた当人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 17

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用する購入者本人の状態や様子全般から得られる情報も、状況把握につながる重要な手がかりとなる場合がある。
- b 医薬品の販売に従事する専門家からの情報提供は、専門的な表現で行うよう努める必要がある。
- c 同一の一般用医薬品を継続的に購入する者に対しては、その販売の都度、コミュニケーションを行うよう配慮する必要はない。
- d 購入者が情報提供を受けようとする意識に乏しい場合でも、可能な情報提供を行っていくためのコミュニケーション技術を身につけるべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問18

サリドマイドに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド訴訟とは、催眠鎮静剤等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟をいう。
- b サリドマイドは、妊娠している女性が摂取した場合、血液-胎盤関門を通過して胎児に移行する。
- c サリドマイドの血管新生を妨げる作用は、光学異性体のうちS体のみが有する作用であることから、R体を分離して製剤化することで催奇形性を避けることができる。
- d サリドマイドによる薬害事件をきっかけとして、市販後の副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問19

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a CJD訴訟とは、脳外科手術等に用いられていたブタ乾燥硬膜を介してCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b CJDは、細菌でもウイルスでもないタンパク質の一種であるプリオンが原因とされている。
- c CJD訴訟は製造業者のみを被告として、大津地裁、東京地裁で提訴された。
- d CJD訴訟の和解後、生物由来製品による感染等被害救済制度の創設等の措置が講じられるようになった。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問20

スモンに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 スモン訴訟とは、解熱鎮痛剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 スモンの症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- 3 スモン訴訟は、国および製薬企業を被告として提訴されたが、各地の地裁および高裁において和解が勧められた。
- 4 スモン訴訟を契機の一つとして、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。



【主な医薬品とその作用】

問 2 1

かぜおよびかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a かぜの症状は、呼吸器症状と様々な全身症状が組み合わさって現れる。
- b かぜの約8割は細菌の感染が原因である。
- c かぜの治療は、安静にして休養し、栄養・水分を十分に摂ることが基本である。
- d かぜ薬は、細菌やウイルスを体内から除去することを目的としているものが主流である。

1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

問 2 2

かぜ薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サイコは、解熱作用を期待して配合されている場合がある。
- b アスピリンは、水痘（水疱瘡）またはインフルエンザにかかっている小児には使用を避ける必要があるが、一般用医薬品の場合、これらの疾病にかかっていないと診断された小児であれば使用してもよい。
- c クロルフェニラミンマレイン酸塩は、主に抗コリン作用によって鼻汁分泌やくしゃみを抑える。
- d ブロムヘキシン塩酸塩は、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える作用がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問23

抗炎症成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a セミアルカリプロテイナーゼは、体内で産生される炎症物質を分解する作用がある。
- b ブロメラインは、炎症が生じた組織において、フィブリン類似の沈着物質を分解し、炎症浸出物の排出を促すことで、炎症による腫れを和らげる。
- c トラネキサム酸は、フィブリノゲンやフィブリンを分解する作用もあり、血液凝固異常のある人では出血傾向を悪化させるおそれがある。
- d グリチルリチン酸は、大量に摂取すると偽アルドステロン症を生じるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問24

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a けいしとう 桂枝湯は、構成生薬としてカンゾウを含まない。
- b しょうせいりゅうとう 小青竜湯は、体の虚弱な人、胃腸の弱い人には不向きとされている。
- c しょうさいことう 小柴胡湯は、かぜの初期、鼻かぜに適すとされている。
- d こうもくさん 香蘇散は、血の道症に適すとされている。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 2 5

解熱鎮痛薬に用いられる生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛薬に用いられる生薬成分は、プロスタグランジンの産生を抑えることで解熱または鎮痛をもたらすと考えられている。
- b ジリュウのエキスを製剤化した製品は、「感冒時の解熱」が効能・効果となっている。
- c シャクヤクは、鎮痛鎮痙<sup>けい</sup>作用を示し、内臓の痛みにも用いられる。
- d ボウイは、発汗を促して解熱を助ける作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 2 6

次の鎮痛目的で用いられる漢方処方製剤とその特徴の組み合わせについて、誤っているものはどれか。

- | [漢方処方製剤]                       | [特徴]   |
|--------------------------------|--|
| 1 <sup>しゃくやくかんぞうとう</sup> 芍薬甘草湯 | 体力に関わらず、筋肉の痙攣 <sup>けいれん</sup> 、腹痛、腰痛に適すとされる。     |
| 2 <sup>ごしゅゆとう</sup> 呉茱萸湯       | 体力中程度で痛みがあり、ときにしびれがあるものの関節痛、腰痛に適すとされる。           |
| 3 <sup>けいしかじゅつぷとう</sup> 桂枝加朮附湯 | 体力虚弱で、汗が出、手足が冷えてこわばり、ときに尿量が少ないものの神経痛、筋肉痛に適すとされる。 |
| 4 <sup>ちょうとうさん</sup> 釣藤散       | 体力中程度で、慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりがあるものの慢性頭痛、神経症に適すとされる。   |

問 27

一般用医薬品である睡眠改善薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬は、脳内のヒスタミン濃度を低下させることで眠気を促す。
- b 抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬は、慢性的な睡眠障害がある人を対象として用いられる。
- c 抗ヒスタミン成分は、特に小児では、眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などの副作用が起きやすい。
- d ブロモバレリル尿素は、少量でも眠気を催しやすい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 28

鎮<sup>うん</sup>暈薬の有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、抗ヒスタミン成分ではないため、眠気や口渇などの副作用が現れることはない。
- b メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが遅く持続時間が長いため、専ら鎮<sup>うん</sup>暈薬に配合されている。
- c ジプロフィリンは、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として配合されている場合がある。
- d ジフェンヒドラミンサリチル酸塩は、外国において乳児突然死症候群などの致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、小児では使用を避ける必要がある。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問29

小児鎮静薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児鎮静薬は、興奮状態を鎮めるため、血液の循環を抑制する作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。
- b 漢方処方製剤は、用法・用量において適用年齢の下限が設けられていない場合にあっても、幼児には使用しないこととなっている。
- c 柴胡加竜骨牡蛎湯さいこかりゅうこつぼれいとうを小児の夜泣きに用いる場合には、体質の改善に1か月位を要するため、症状の改善がみられないときでも、少なくとも1か月位は継続して服用すべきである。
- d レイヨウカクは、健胃、強壮などの作用を期待して用いられることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問30

鎮咳去痰薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鎮咳去痰薬は、反射的に出る咳を鎮めることやその原因となる痰の切れをよくすることを目的とする医薬品の総称であり、喘息症状を和らげることを目的とする医薬品は含まない。
- b ジヒドロコデインリン酸塩を含む医薬品は、原則、12歳未満の小児に使用しないよう注意喚起を行う必要がある。
- c コデインリン酸塩は麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。
- d ジヒドロコデインリン酸塩は、胃腸の運動を低下させる作用も示す。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問31

鎮咳去痰薬の有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a デキストロメトルファンフェノールフタリン塩は、主に内用液剤に配合される。
- b メチルエフェドリン塩酸塩は、副交感神経を刺激して気管支を拡張させる作用を示す。
- c メトキシフェナミン塩酸塩は、心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。
- d ジプロフィリンは、自律神経系を介さずに、気管支の平滑筋に直接作用する。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問32

次の記述に当てはまる去痰成分として、最も適切なものはどれか。

気道粘膜から分泌される粘液成分の含量比を調整し痰の切れをよくする作用がある。

- 1 ブロムヘキシン塩酸塩
- 2 カルボシステイン
- 3 グアヤコールスルホン酸カリウム
- 4 エチルシステイン塩酸塩
- 5 グアイフェネシン

問33

口腔咽喉薬およびうがい薬（含嗽薬）に配合される生薬成分および漢方処方製剤に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ラタニアは、クラメリア科のクラメリア・トリアンドラおよびその同属植物の根を基原とする生薬で、咽頭粘膜をひきしめる（収斂）作用により炎症の寛解を促す効果を期待して用いられる。
- 2 駆風解毒散および駆風解毒湯は、体力に関わらず、喉が腫れて痛む扁桃炎、扁桃周囲炎に適すとされる。
- 3 白虎加人参湯は、虚弱で、熱感と口渇が強いものの喉の渴き、ほてり、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみに適すとされる。
- 4 響声破笛丸は、体力に関わらず、しわがれ声、咽喉不快に適すとされる。

問34

胃腸薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 炭酸水素ナトリウムなど制酸成分を主体とする胃腸薬は、胃酸に対する中和作用が低下するため、炭酸飲料での服用は避けるべきである。
- b スクラルファートは、透析を受けている人は使用を避ける必要がある。
- c アズレンスルホン酸ナトリウムは、消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として配合されていることがある。
- d ピレンゼピン塩酸塩は、消化管の運動にほとんど影響を与えずに胃液の分泌を抑える作用を示すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正



問35

整腸薬、止瀉薬、瀉下薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 整腸薬、止瀉薬では、医薬部外品として製造販売されている製品はない。
- b 木クレオソートは、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として用いられることがある。
- c センナは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに、糞便を柔らかくすることを目的として用いられる。
- d ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸では分解されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解されて、大腸への刺激作用を示すようになる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問36

胃腸鎮痛鎮痙<sup>けい</sup>薬の有効成分に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の( b )内は、いずれも同じ字句が入る。

胃腸鎮痛鎮痙<sup>けい</sup>薬に配合される抗コリン成分としては、( a )がある。抗コリン作用を示すアルカロイドを豊富に含む生薬成分として( b )が用いられることも多い。ただし、( b )の使用期間中は、授乳を避ける必要がある。

	a	b
1	ブチルスコポラミン臭化物	エンゴサク
2	ブチルスコポラミン臭化物	ロートエキス
3	パパベリン塩酸塩	エンゴサク
4	パパベリン塩酸塩	ロートエキス
5	アミノ安息香酸エチル	エンゴサク

問37

浣腸薬における注入剤の用法等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 注入する薬液は、冷やしておくことと不快感を生じることが少ない。
- b 薬液を注入した後は、長く排便を我慢すると薬液により直腸粘膜が損傷するので、すぐに排便を試みる。
- c 半量を使用する用法がある場合は、残量を再利用すると感染のおそれがあるので使用後は廃棄する。
- d グリセリンは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問38

駆虫薬とその有効成分に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫、蟯虫ぎょうちゅうと糸虫（いわゆるサナダ虫など）である。
- 2 駆虫薬は、一般的に、一度に複数の種類を併用し、駆虫効果を高めて使用する。
- 3 ピペラジンリン酸塩は、赤～赤褐色の成分で、尿や糞便ふんが赤く着色することがある。
- 4 サントニンさんとうにんは、虫体を糞便とともに排出させることを目的として用いられる。

問39

強心薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ロクジョウは、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- b センソが配合された内服固形製剤は、口中でよく嚙<sup>か</sup>んで服用することとされている。
- c ゴオウは、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- d センソは、1日用量中のセンソが10mgを超える場合には劇薬に指定されており、一般用医薬品では、10mg以下となるよう用法・用量が定められている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問40

コレステロールおよび高コレステロール改善薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a コレステロールの産生および代謝は、主として<sup>すい</sup>膵臓で行われる。
- b ビタミンEは、コレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされる。
- c 大豆油不<sup>けん</sup>飽化物（ソイステロール）には、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- d 血液中のHDLが多く、LDLが少ないと、コレステロールの運搬が末梢組織側に偏ってその蓄積を招き、心臓病や肥満、動脈硬化症等の生活習慣病につながる危険性が高くなる。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問4 1

貧血用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄製剤を服用して便が黒くなった場合は、ただちに服用を中止する必要がある。
- b 巨赤芽球貧血は、ビタミンB2が不足して生じる。
- c 鉄製剤は、服用の前後30分にコーヒーを飲むと、鉄の吸収が悪くなることがある。
- d 鉄要求量の増加する妊婦では、鉄欠乏性貧血の予防に鉄製剤を使用することが推奨される。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問4 2

痔疾用薬に用いられるステロイド性抗炎症成分として、正しいものはどれか。

- 1 リゾチーム塩酸塩
- 2 セチルピリジウム塩化物
- 3 テトラヒドロゾリン塩酸塩
- 4 ヒドロコルチゾン酢酸エステル
- 5 ジフェンヒドラミン塩酸塩

問43

婦人薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 女性ホルモン成分を含む婦人薬は、長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌<sup>がん</sup>や脳卒中などの発生確率が高まる可能性もある。
- b サフランは、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- c 桂枝茯苓丸<sup>けいし ぶくりょうがん</sup>は、比較的体力があり、ときにのぼせて足冷えなどを訴えるものの月経不順、月経痛、更年期障害などに適すとされる。
- d 当帰芍薬散<sup>とうき しゃくやくさん</sup>は、体力虚弱で、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛や肩こり、耳鳴りなどを訴えるものの月経不順、月経痛、更年期障害などに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 4 4

内服アレルギー用薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a プソイドエフェドリン塩酸塩は、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強い。
- b 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用はあるが、抗コリン作用は示さない。
- c ベラドンナは、ナス科の草本で、その葉や根に、副交感神経系の働きを抑える作用を示すアルカロイドを含む。
- d カンゾウは、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問45

内服アレルギー用薬に配合される生薬成分および漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ケイガイは、発汗、解熱、鎮痛等の作用を有するとされ、鼻閉への効果を期待して用いられる。
- b 茵蔯蒿湯<sup>いんちんこうとう</sup>は、体力中等度以上で、濃い鼻汁が出て、ときに熱感を伴うものの鼻づまり、慢性鼻炎、蓄膿症<sup>のう</sup>に適すとされる。
- c 当帰飲子<sup>とうきいんし</sup>は、体力中等度で冷え症で、皮膚が乾燥するものの湿疹・皮膚炎（分泌物の少ないもの）、痒み<sup>かゆ</sup>に適すとされる。
- d 消風散<sup>しょうふうさん</sup>は、体力中等度以上の人の皮膚疾患で、痒みが強くて分泌物が多く、ときに局所の熱感があるものの湿疹・皮膚炎、蕁麻疹<sup>じんじん</sup>、水虫、あせもに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正



問46

鼻炎用点鼻薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鼻炎用点鼻薬は、主に慢性鼻炎、アレルギー性鼻炎または副鼻腔炎による諸症状のうち、鼻づまり、鼻汁過多、くしゃみ、頭痛の緩和を目的としている。
- b ナファゾリン塩酸塩を含有する点鼻薬は、過度に使用されると、鼻閉がひどくなりやすい。
- c 点鼻薬に用いられる抗ヒスタミン成分は、全身作用を目的としている。
- d クロモグリク酸ナトリウムを含有する一般用医薬品の点鼻薬は、肥満細胞からのヒスタミン遊離を抑える作用を示し、医療機関における減感作療法等のアレルギー治療の妨げとなるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問47

眼科用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ソフトコンタクトレンズをしたままで点眼をする場合には、防腐剤が配合されている製品を選ぶべきである。
- b 点眼後は、数秒間、眼瞼（まぶた）を閉じるが、その際、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐため、目頭を押さえると効果的とされる。
- c 一般的に、点眼薬の1滴の薬液量は、結膜囊の容積より少ない。
- d 点眼薬は、その使用が原因となり、全身性の副作用として、皮膚に発疹、発赤、痒み等が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問48

外皮用薬として用いられる非ステロイド性抗炎症成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a フェルピナクは、皮膚の下層にある骨格筋や関節部まで浸透してプロスタグランジンの産生を抑える。
- b ピロキシカムは、細胞膜の安定化、活性酸素の生成抑制などの作用により、抗炎症作用を示すと考えられている。
- c インドメタシンは、筋肉痛、関節痛、打撲、捻挫等による鎮痛等を目的として用いられる。
- d ジクロフェナクナトリウムは、殺菌作用があり、皮膚感染症に対しても効果がある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問49

外皮用薬として用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヘパリン類似物質は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することにより保湿作用を示す。
- b ケトプロフェンは、胎児への影響を考慮して、妊婦への使用を避けるべきである。
- c カルプロニウム塩化物は、女性ホルモンに類似した作用により、脱毛抑制効果がある。
- d クロルフェニラミンマレイン酸塩は、虫刺されによる一時的かつ部分的な皮膚症状（ほてり、腫れ、<sup>かゆ</sup>痒み等）の緩和を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問50

みずむしとその治療に用いる医薬品の有効成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a みずむしは、皮膚に常在する桿菌<sup>かん</sup>の一種が繁殖することが原因で起こる疾患である。
- b オキシコナゾール硝酸塩は、みずむしの原因菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- c ブテナフィン塩酸塩は、みずむしの原因菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。
- d みずむしは、古くから知られており、様々な民間療法が存在することから、それらと医薬品の使用とを併用することが、治療に有用であることが多い。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問51

歯槽膿漏<sup>のう</sup>薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 歯周組織の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸二カリウムが配合されている場合がある。
- b 炎症による腫れや出血を抑える効果を期待して、ビタミンEが配合されている場合がある。
- c 抗菌などの作用を期待して、生薬成分であるカミツレが配合されている場合がある。
- d ステロイド性抗炎症成分の含有量が少ない場合には、長期連用を避ける必要はない。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問52

禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 咀嚼<sup>そしゃく</sup>剤である禁煙補助剤は、嚙<sup>か</sup>むことで放出されたニコチンが胃粘膜から吸収されて循環血液中に移行することを目的としている。
- b 禁煙補助剤は、重い心臓病等の基礎疾患がある人では、循環器系に重大な悪影響を及ぼすおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
- c 禁煙補助剤は、長期間にわたって使用されるべきものではないため、短期間で急速にその使用量を減らしたほうが、結果的に禁煙達成につながるとされる。
- d 禁煙補助剤は、炭酸飲料を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問53

ビタミンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB<sub>2</sub>は、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b ビタミンEは、下垂体や副腎系に作用してホルモン分泌の調節に関与するとされており、生理が早く来たり、経血量が多くなったりすることがある。
- c ビタミンDの欠乏症としては、高カルシウム血症、異常石灰化が知られている。
- d ビタミンAは、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問54

滋養強壯保健薬に用いられる成分とその作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。
- b グルクロノラクトンは、米油および米胚芽油から見出された抗酸化作用を示す成分で、ビタミンE等と組み合わせて配合されている場合がある。
- c システインは、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドと直接反応して代謝を促す働きがあるとされる。
- d ヘスペリジンは、ビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 5 5

漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般の生活者においては、「漢方薬はすべからく作用が穏やかで、副作用が少ない」などという誤った認識がなされていることがある。
- b 漢方薬を使用する場合は、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが重要である。
- c 現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤は、中薬と呼ばれ、漢方薬のうちに含まれる。
- d 基礎疾患やアレルギー歴が不明確な患者においては、漢方処方製剤が積極的に使用されるべきである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正



問56

漢方処方製剤に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

( a ) は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。構成生薬としてカンゾウを含む。

( b ) は、体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、血の道症、めまい、動悸、更年期障害、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では不向きとされる。

( c ) は、体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるもののにきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎、赤鼻（酒さ）に適すとされるが、胃腸の弱い人では食欲不振、胃部不快感の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

	a	b	c
1	ぼういおうぎとう 防己黄耆湯	おうれんげどくとう 黄連解毒湯	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯
2	ぼういおうぎとう 防己黄耆湯	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯	おうれんげどくとう 黄連解毒湯
3	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯	ぼういおうぎとう 防己黄耆湯	おうれんげどくとう 黄連解毒湯
4	おうれんげどくとう 黄連解毒湯	ぼういおうぎとう 防己黄耆湯	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯
5	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯	おうれんげどくとう 黄連解毒湯	ぼういおうぎとう 防己黄耆湯

問57

殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a クレゾール石鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- b エタノールは、粘膜刺激性があり、粘膜面や目の回り、傷がある部分への使用は避けることとされている。
- c 次亜塩素酸ナトリウムは、皮膚刺激性が弱いため、手指の消毒に適している。
- d トリクロロイソシアヌル酸は、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問58

衛生害虫の防除に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 殺虫成分のペルメトリンは、人体におけるシラミの防除を目的として、シャンプーやてんか粉に配合されている場合がある。
- 2 トコジラミは、体長が比較的大きい（成虫で約8mm）ので、電気掃除機で吸引することによる駆除も可能である。
- 3 ゴキブリの卵は、医薬品の成分が浸透しない殻で覆われているため、燻蒸処理をしても殺虫効果を示さない。
- 4 ヒョウヒダニ類は、ヒトを刺すことはないが、ダニの糞や死骸がアレルギーとなって気管支喘息やアトピー性皮膚炎を引き起こすことがある。

問59

一般用検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用検査薬は、薬局においてのみ取り扱うことが認められている。
- b 検査薬は、対象とする生体物質を特異的に検出するため、結果が陰性の場合には検体中に対象物質が存在していないことを意味する。
- c 擬（偽）陽性とは、対象物質が検体中に存在していないにもかかわらず、検査対象外の物質と非特異的な反応が起こって検査結果が陽性となった場合をいう。
- d 悪性腫瘍の診断に関係するものは一般用検査薬の対象外であるが、染色体異常など、一部の遺伝性疾患については、一般用検査薬の対象となっている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問60

妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の検出反応は、温度の影響を受けることはない。
- b ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）は、妊娠中の絨毛細胞から特異的に分泌されるホルモンであるため、それ以外の組織から分泌されることはない。
- c 検体（尿）中の成分は、細菌の繁殖等によって分解が進み、検査結果に影響を与えるおそれがある。
- d 妊娠検査薬は、妊娠の確定診断を目的としたものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤